

C 8 保育に関する現代の意識 — 保育学習に関する意識を通して —
都立荒川商業高 原田雅子

目的 育児に関する意識調査は、従来から育児の主な担い手である母親を対象として多くなされてきているが、近年家庭の外で働く母親の増加や父親の育児参加、協力の重要性が問題とされ、父親、男性の育児意識も注目されている。本調査研究は、現代の保育、育児の傾向を把握しながら高等学校家庭科の保育学習について今後参考となる手がかりを考察することを目的に、母親のみならず父親の育児意識の調査、並びに男女高校生の育児意識の調査を実施し、結果の比較検討を試みた。

方法 ②：調査対象者 R, F 保育園（父親 230 名、母親 236 名） R, F, A, M 幼稚園（父親 161 名、母親 161 名） A, H, F, K 高等学校（女子 400 名、男子 237 名）いずれも東京都及び横浜市近郊。 ③：調査日時 昭和 58 年 9 月～11 月 ④：調査手続き 調査用紙は、7 月に行なった予備調査をもとに製作。無記名、選択形式とした。調査方法は、各保育園、幼稚園、高等学校を通して配布、記入を依頼、回収をした。 ⑤：回収率 保育園児の家庭、約 50% 幼稚園児の家庭、約 74% 高校生、約 100%

結果 現代の育児意識として、父親自身が育児に参加、協力するものであるという意識傾向が高く、父母ともに高等学校家庭科「保育」授業を男子生徒も学習することに賛成する育児に対し積極的男性参加の見解がみられた。一方、男子高校生は父親の育児参加の重要性を認めながら、育児への関心は低い。又、父母の育児上の主な悩み、不安は子どもの健康、しつけ、性格形成についてであり、これらの専柄に関心が高くよせられており学習を望んでいるなどの傾向を知ることができた。